

平成22年度 第1回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成22年6月1日 (火) 18:00～20:00

場 所 : 明治安田生命ビル2階 第1会議室

出席者 : 小松委員、高木委員、大下委員、山田委員、宮嶋委員、小原委員、白川委員
(事務局) 金井教育長、伊藤総務部長、手呂内職員部長、
海野教育環境整備推進室長、渡邊学校教育部長、鈴木教育改革推進担当部長、
沼田生涯学習部長、広瀬企画課長 ほか

欠席者 : 田中委員、堀切委員、深澤委員、門倉委員

傍聴者 : なし

司 会 : 広瀬企画課長

〔配布資料〕

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画（概要版）、全体像
- ・かわさき教育プラン第3期実行計画策定スケジュール
- ・教育振興基本計画（文部科学省）パンフレット
- ・政令市の教育振興基本計画策定状況
- ・平成21年度 第3回 川崎市教育改革推進協議会摘録
- ・川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱
- ・川崎市教育改革推進協議会委員名簿

1. 開会

- ・本協議会が公開会議であることの報告
- ・新任委員あいさつ
- ・教育長あいさつ

2. 報告・説明（事務局より）

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画（概要版）、全体像について
- ・かわさき教育プラン第3期実行計画策定スケジュールについて
- ・教育振興基本計画（文部科学省）パンフレットについて
- ・政令市の教育振興基本計画策定状況について

3. 協議題

- ・第3期実行計画での取組課題について

〔委員からの質問・意見及び事務局からの回答〕

(座長) ・小学校は指導要領の改訂もあるが、川崎の小学校の状況はどうか？

(委員) ・移行措置により、教える量が増えたと感じている。先日、算数の研究授業を見てきたが、教え込みのような形でないと間に合わない。自ら考える力をつけさせたいのだが、時間がない。また、学力テストについての対策がない。学力テストは川崎市と横浜市は同等水準のようだが、体力テストは神奈川県が全国ワースト1

で、県内の中で川崎は悪いほう。教育プランに掲げられている計画を推進しようとしても、現場は苦勞している。第3期実行計画では、改善できるよう実のあるものにしたい。

(委員) ・ PTAは、「子どものために」と偏りすぎだと思う。自分たちが学ばなくてはならない部分が置き去りにされていると感じている。算数の教え込みの話もあったが、保護者にも言える。言葉など、表面だけでしか理解していないことが多くなったような気がする。子どもの状況は保護者に影響されているのだから、家庭の教育力の低下を学校教育で底上げしていくのは難しい。PTAは学校教育に関わるだけでなく、家庭教育（食育など）をやっていくほうがいい。体力低下についても、PTAで何ができるだろうかと、昨年からは家庭へのアプローチを始めた。子どもと向き合えずに素通りしてしまう保護者をどうにかしなければならぬと思う。

(座長) ・ 体力低下の話題が出たが、低下を防ぐ取組は？

(事務局) ・ 小学校では、地区別運動会やキラキラタイムなどを行っている。一年間縄跳びの練習を続けた学校は、地区別の運動会で優勝した例もある。運動そのものに慣れさせることが必要だと考えている。新体力テストの結果だけではなく、実態を把握することが大事だと思う。外部指導者の導入も行っているが、全校ではなく、対策の検討が必要だと思う。通学区域が比較的近いところに設定されているため、遠距離通学している地方の子どもに比べると持久力が落ちる可能性は否めない。

(座長) ・ 学力と体力の相関性を聞いたことがある。地方の学校では、学区が広いこともあり、歩く距離・時間も都会とは違う。かといって、データ上でこの相関性が証明されているわけではないようだが、子どもに限らず大人の体力向上も視野に入れて、総合的に川崎市民の健康向上を図る、といった方向性が見られると良いのではないか。

(委員) ・ 地方によってはスクールバスや車で通学するために、体力が低下しているという話も聞いている。

(座長) ・ 中学校の部活動などではどうか？

(事務局) ・ 部活動というわけではないが、駅伝大会などの行事に向けた練習を重ねている学校もあり、体力値の高い学校もある。行事が精選されてきたことで、今までは体育祭、駅伝やマラソン大会など、色々な行事があったが、スポーツ大会などを行わなくなった学校もある。

(委員) ・ 今年度から学校支援センターの拡充が図られているが、現役を退いて地域に戻ってきたシニア世代がこれまでの経験を活かして子どもと触れ合う機会の拡大につながり、重要である。地域の中に学校を創るということと併せて、社会の中に学校の意識を入れることが必要だと思う。会社を退職して地域に入り、趣味である「私」から、ボランティア活動などの「公」への移り変わりを考えるときに、学校の存在はとても大切で、学校への関わりから「市民性」がおのずと身につくと思う。教育プランの重点施策6にある生涯学習の部分を発展させたい。

(事務局) ・ 学校支援センターは、登録ボランティアのリスト作成と学校への配布を行っているところ。少しずつ人材の掘り起こしが出来てきている。

(委員) ・ 地域の人材活用は学校自体がもっと地域に声をかけてくれるとハードルが低くな

るのかもしれない。PTAも現役を退いていると、学校に言いにくい部分はやはりある。

- (座長) ・ジェンダーの観点から、全体的な取組に対する配慮は必要だと思うか？
- (委員) ・特に問題は無いように思う。
- (委員) ・小学校と中学校の教員の大変さは違うと思うが、教員が休んだ後のフォローが子どもから見ると気にかかる部分があるよう。教員も人間なのだから休むこともあると思うが、休みを取ることに責任を感じて簡単に取れないようだ。教員の休暇についてのフォロー体制が必要。中学では部活の時間も大事だが、授業のあとに部活を行うには、頑張る先生とそうでない先生がいるだろう。子どもたちをひっぱってくれるような先生がいるといい。新学習指導要領は子ども以上に教員が大変そう。
- (座長) ・教員の多忙感については、東京都ではコスト算出をしているようだ。今度のプランでは教員が元気に活動できる環境を作るプランを考えたい。
- (委員) ・教育は時間がかかるもの。昨今は短いサイクルで政治情勢が変わり、よく言えば新しいものが出てくるが、悪く言えば責任を取らずに変革している。世の中の流れにあまりとらわれ過ぎず、教員の多忙感や各地域の教育状況等、特に川崎は南北に長く、区でも違いがあるのだから、実態を踏まえることが大切では。第3期実行計画では、第2期を継承しながら地域実態を踏まえて考えることが必要。この協議会を地域発の教育を考える場にできたらいいと思う。
- (委員) ・市民館の区役所移管は、今までにない変化だったと思う。社会教育から生涯学習になったが、根本は変わらない。移管してどのように変わっていききたいのか、どのように変わるのか、教育の独自性云々ではなく、これからのコンセプトをどう持って区役所と融合していくのか？
- (事務局) ・社会教育事業は補助執行あるいは事務委任という形で区役所が行うことになったが、あくまでも事業は教育委員会事業なので、これまでと大きく変わるわけではない。狭い教育の中だけでなく、区の中の市民活動という広い視野での事業実施を考えている。
- (委員) ・働く職員の意識も気にかかるのだが。
- (事務局) ・研修は区の職員も含めて教育委員会で行う。また、第3期実行計画でスポーツ分野をどう扱うのか、検討していきたい。
- (座長) ・移管に関連して、東京23区では、幼保についてはこども局が持っているところが多いが、スポーツは区によって違う。地方行政のあり方の問題か？教育委員会のあり方等、国にも動きがありそうだが、市民の立場では市のどこがやるのかは問題ではない。一市民として、推進してもらいたいことを議論したい。
- (委員) ・川崎は教育委員会と学校が、互いに考えながらうまく連携して取組んでいるし、特別支援級は全校に設置されている。これは全国的にも珍しく、誇れることだと思う。もっとアピールしていいのでは。学校も地域をかなり意識している。体力については、上げたいけれど事故等何かあっては…という保護者との兼ね合いもあるが、「音楽のまちかわさき」等を名乗っている中で「教育のまちかわさき」を名乗って欲しい。それが広まると、よりよい教員も集まってくるのではないかと。

- (座長) ・学力のことや新学習指導要領のことなども議論しなくてはいけないと思うが、テーマとして何かあるか。
- (委員) ・「地域性」。区の特徴など、教育との関連から話をしてはどうか。
- (委員) ・区によって大きく違う。“開かれた”と言っても、できる学校とできない学校がある。PTA自体にも言えることで、地域によって保護者の協力の有無まで違うので、開かれた学校づくりを進めることによる教員の負担が出てくると思う。
- (事務局) ・学校施設を地域へ開放しているが、学校との協力関係が必要。トイレ一つとっても普段学校が使っている中では地域開放に不向きなつくりなど、気づかないこともある。職場の環境改善は表面に出にくいのが、地域の財産としてハード（学校施設）の整備を進めたい。また、学校評価の項目として、施設のことはあまり出ていない。施設面での評価というののもあっていいのかなとは思っている。新学習指導要領に沿った施設整備の必要性はあるものの、文科省でもまだ十分議論されていない。指導内容とハードは表裏一体だと思う。次期の実行計画では特別教室だけではなく教科教室や子どもたちの発達に合わせた教室をつくっていききたい。
- (座長) ・見栄えよりも中身の問題だと思う。第3期実行計画では、つくったハードをどう活用するかなど、派手さはないかもしれないが、活かした計画をつくりたい。
- (委員) ・学校選択制についての議論はどうか。たった30メートルの違いで学校が違う場合がある。学校が違っていると近所であってもつながりがなく、保護者や子どもも知らないとか、知っている場合は、違う学校の情報が入って、「隣の芝生」状態になることもある。学校間交流など、もっと地域が学校と一体的になれる独自性があるのもいいと思う。
- (委員) ・地域教育会議もあるが、横のつながりや今あるものの活用で工夫できると思う。
- (座長) ・川崎らしさを1つ次期実行計画に入れたい。とはいえ、「川崎らしさ」や「川崎ならではの」の難しさがあると思うがどうか。
- (事務局) ・「川崎らしさ」を考えると「多様性」がキーワードかと思う。多様性が活かされるような教育が必要。
- (座長) ・プランの基本的な考え方は変えない形で実行計画を考えていければと思う。それぞれの現場で使える、効果的な市民・子どもたちの役に立つ実行計画を考えたい。計画を考えると予算の話も出てくるが、限られた予算の中で効果的・有効に使える計画、成果が上がる実行計画になるといいと思う。
- (事務局) ・予算の話だが、川崎では学校の自主性を認めて、夢教育21事業など、学校の希望に応じた予算配分を行っている。また、2学期制を導入したことによって、夏休みや秋休みは各学校の裁量で実情に応じた期間を設定できる。これからも学校の裁量は大事にしながら特色ある学校づくりを進めていきたい。
- (座長) ・事務局からそれぞれひとことどうぞ。
- (事務局) ・市の総合計画は、3年間の事務事業を網羅したもの。この計画は他都市と違い、どれも財源の裏づけをしておき、実行性のある計画にしている。どう表明していくかがポイントで、派手なリップサービスができない分、着実に実行計画になる。川崎の教育をどうしていくのか、という政策的な議論もある。市長マニフェストによれば、人材育成を重要視しているので、教育費を大きく増やしてもらえる可能性があるのでは、と期待している。

- (事務局) ・教員採用試験の応募数は昨年より増えている。国の状況も変わってきているが、優秀な教員を確保していきたい。採用だけでなく、採用後の研修等も充実させ、人材育成に努めたい。また、併せて教職員の労働環境を改善したい。
- (座長) ・各教員が、採用から退職に至るまで気持ちよく働けるような環境、研修等を整えることは重要だ。
- (委員) ・教育は「人とカネ」があればできると言われているが、ない中で工夫をする、それに尽きると思う。

[協議終了]

事務連絡後、閉会